

研究課題名	母指 CM 関節症に対する鏡視下 Rubino 法の術後成績に関する観察研究
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	母指 CM 関節症（親指の付け根と手首の間にある「母指 CM 関節」に生じる変形性関節症で、痛みや動きの制限を引き起こす疾患）に対する手術治療には、関節の形を整える関節形成術、関節を固定する関節固定術、骨の形を調整する中手骨骨切り術、そして人工関節への置換術など、多様な選択肢があり、それぞれで良い治療成績が報告されています。しかしながら、現時点では、特定の術式が他の術式と比べて明確に優れているという科学的な根拠はまだ確立されていません。そのような状況の中、Rubino 医師らは、本来は関節の骨どうしを固定する関節固定術の合併症として起こる偽関節（手術で固定した骨が完全にくっつかず、動きが残ってしまう状態）が、患者様の痛みや機能の低下に必ずしも繋がらないという重要な臨床的知見を得ました。これに基づき、彼らはあえてこの偽関節の状態を作り出すことで関節の動きを温存する新しい術式を考案し、2013 年にその有効性を報告しています。私たちも同様の経験から、この Rubino 法を、皮膚切開を最小限に抑え内視鏡を用いて行う、身体への負担が少ない鏡視下手術（低侵襲な手術）へと応用しました。この新しい治療法に関する臨床データを詳細に収集・解析することで、今後の母指 CM 関節症治療における、より最適な治療の確立に貢献したいと考えております。
研究対象者	2023 年 5 月から 2025 年 9 月までにベルランド総合病院総合整形外科へ母指 CM 関節症治療のために受診され、鏡視下 Rubino 法を受けられた方
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記の項目を、本研究に使用させてください。 診療情報：生年月、性別、手術日、および抜釘日、術前と術後の単純 X 線像（レントゲン）および CT 像、QuickDASH（腕や肩を含めた上肢全体の日常生活での使いやすさに関する質問票）、疼痛 Visual Analogue Scale（痛みの度合いを 0 から 100 で示していただく尺度）、握力およびつまみ力、母指の可動域
研究予定期間	機関の長の実施許可日～ 2027 年 12 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院 総合整形外科のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 院長 片岡 亨
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 総合整形外科 ハンドセンター 氏名：蒲生和重 メールアドレス：k_gamo@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）